



高山記者クラブ同時配布資料

平成28年2月4日（木）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
中山間農業研究所	試験研究部	そでがき 袖垣・さかがいと 坂垣内	直通 0577-73-2029 FAX 0577-73-2751

「中山間農業研究所本所研究成果検討会」の開催について

岐阜県中山間農業研究所では、中山間農業を取り巻く諸課題に的確に対応した新たな技術開発を行うため、地域と一体となった研究に取り組んでいます。

このたび、地域農業に関わる方や関係者に対し平成27年度の試験研究の成果を報告し、生産現場へ迅速な普及を図ることを目的として、下記のとおり「中山間農業研究所本所研究成果検討会」を開催します。

記

- 日時 平成28年2月10日（水） 13:30～16:10
- 場所 飛騨総合庁舎分館3階 大会議室
(高山市上岡本町7-468 電話:0577-33-1111)
- 参加対象者 約100名 農業者、農業関係団体・市町村職員等
- 発表内容

課題名	内容
すくな 「宿儺かぼちゃ」の多収栽培並びに貯蔵技術の確立 (13:45～14:05)	飛騨地域特産野菜「 <u>宿儺かぼちゃ</u> ^{*1} 」について、子蔓先端を摘芯する摘芯栽培と、1株あたり5本の子蔓を利用して3果を収穫する仕立て方法を確認しました。また、貯蔵中の食味の変化について明らかにするとともに、長期貯蔵方法を検討したので報告します。
モモの新台木「ひだ <small>こくふべに</small> 国府紅しだれ」による枯死樹発生軽減効果 (14:05～14:25)	近年多発しているモモ若木の凍害による枯死対策として普及を進めている台木品種「 <u>ひだ国府紅しだれ</u> ^{*2} 」について、飛騨各地で10年間実証試験を行った結果、現地圃場においても大幅に枯死樹の発生を軽減できることが実証されたので報告します。
輪ギク「 <small>ひだこがね</small> 飛騨黄金」から選抜した省力栽培可能な早生系統の特性 (14:25～14:45)	飛騨地域で栽培されている輪菊「 <u>飛騨黄金</u> ^{*3} 」では栽培の省力化と適期開花性が求められています。そこで、通常の「飛騨黄金」よりも脇芽の発生が少ないため作業労力を軽減でき、かつ既存の栽培系統よりも早く開花するため開花期調節がより容易な「 <u>飛系菊3号</u> 」を選抜したのでその特性を報告します。
ハウレンソウケナガコナダニ防除体系の組立 (15:00～15:20)	飛騨地域の雨よけハウレンソウで問題となっている <u>ハウレンソウケナガコナダニ</u> ^{*4} については、春の被害には前年の秋冬に粒状の殺虫剤を処理することが有効ですが、効果は翌秋までは持続しません。そこで、粒剤と液状の殺虫剤の組合せ等による防除効果について検討したので報告します。

<p>夏秋トマト葉先枯れ症の軽減対策（第三報） （15:20～15:40）</p>	<p>トマトの葉に発生する生理障害「葉先枯れ症^{※5}」は、枯死部が灰色かび病の感染源になるため問題となっていますが、高温期の急激な蒸散過多が発生を助長する一要因として考えられています。そこで、下葉等を除去し、葉からの蒸散を抑えることによる葉先枯れ症発生軽減効果を検討したので報告します。</p>
<p>飛驒産「コシヒカリ」の品質・食味向上に関する研究 （15:40～16:00）</p>	<p>飛驒地域の水稲基幹品種である「コシヒカリ」は、(一財)日本穀物検定協会により公表される食味ランキング^{※6}で「特A」を獲得するなど市場評価が高まっており、近年はブランド化へ向けたプロジェクトが立ち上がっています。そこで、飛驒産「コシヒカリ」の更なる評価向上に向けて、施肥方法・移植時期・選別等の条件が「コシヒカリ」の品質・食味に与える影響について検討したので報告します。</p>

【用語解説】

※1 宿儺かぼちゃ

高山市丹生川町で古くから栽培されてきた、ヘチマのように長細く、栗のようにほっくりとした味わいのかぼちゃ。丹生川町に古くから伝わる「両面宿儺(りょうめんすくな)伝説」にちなみ、平成13年に「宿儺かぼちゃ」と命名され、「宿儺かぼちゃ研究会」による組織的栽培が行われている。

※2 ひだ国府紅しだれ

中山間農業研究所が地元農家と共同で育成した、30年前頃から地域で被害が増えてきた凍害によるモモの枯死を防止できる台木用の品種。地元の高山市国府町在来の観賞用花ももの中から選抜し、育成。

※3 飛驒黄金

黄色の大輪の輪菊で地域の代表的なお盆咲きの菊品種。1980年頃から栽培されており、草丈伸長が悪い等の欠点があったが、お盆頃に安定して出荷できるため栽培が続けられている。現在は飛驒黄金の原種のほか、飛驒黄金から選抜した早生で脇目が少ない系統が広まっているが、作期分散や地理的要因からさらなる早生、少腋芽系統が求められている。

※4 ホウレンソウケナガコナダニ

成虫でも体長が1mmに満たない小さなダニで、春や秋の比較的低温の時期にホウレンソウを加害する。加害されると芯部の葉が変形、褐変し、商品価値を損なうため問題となっている。土壌に多く生息するため液状の殺虫剤がかかりにくく、防除が困難な害虫の一つである。

※5 葉先枯れ症

肥大するトマトの近辺において葉の先端が枯れ込む障害の一種で、枯死部が病気の感染源になるため問題となっている。カリウムの欠乏症であることが知られているが、土にカリウムを与えても改善されないことも多く、発生にはカリウムの栄養状態以外に多くの要因が影響していると考えられている。

※6 食味ランキング

(一財)日本穀物検定協会が食味官能試験(炊いて実際に食べて比較する検査方法)を実施し発表している全国のお米産地品種の食味格付けのこと。複数産地のコシヒカリブレンド米を基準品種としている。昭和46年産米から毎年全国規模の産地品種について実施されており、平成26年は133産地品種について実施された。